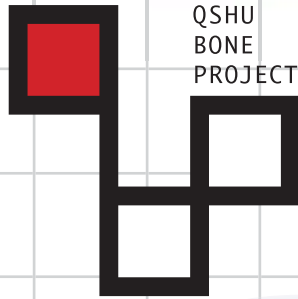


「ユビキタスネットワーク時代」の到来 — 一次世代情報通信時代 —



QSHU
BONE
PROJECT

2002 6/7 **金** 10:30~16:30

主催/九州インターネットプロジェクト

協賛/情報通信月間推進協議会

後援/北九州市

協力/佐賀大学(渡辺研究室)

九州芸術工科大学(藤村研究室、堀研究室)

九州工業大学(小出研究室、尾家・川原研究室)

10:30~

●デモ&展示会

13:00~14:20

●講演会

・テーマ『インターネットがもたらす新たなITSの世界』

・講演者 植原 啓介 氏

(慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特別研究専任講師)

14:30~16:00

●ショートノート&パネルディスカッション

[ショートノート]

・テーマ 『BioGrid最新情報』 下條 真司 氏

『IPv6の最新動向』 江崎 浩 氏

[パネルディスカッション]

・パネラー

下條 真司 氏

(大阪大学 サイバーメディアセンター教授(副センター長))

江崎 浩 氏

(東京大学 大学院 情報理工学系研究科 助教授)

平原 正樹 氏

((財)九州システム情報技術研究所(ISIT) 研究員)

尾家 祐二 氏

(九州工業大学 情報工学部 電子情報工学科 教授)

参加費

無料(申し込みは下記webをご覧ください)

詳細

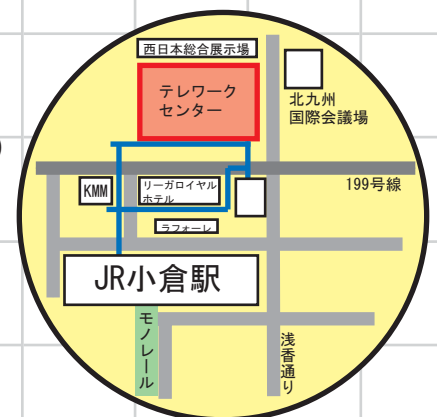
<http://www.qbp.gr.jp/>

場所

〒802-0001

福岡県北九州市小倉北区浅野3-8-1

小倉AIMビル6F北九州テレワークセンター会議室



空想だと思っただ。インターネット、未来のカタチ。

デモ ～出展内容紹介～

●(株)KDDI研究所

DVLive!

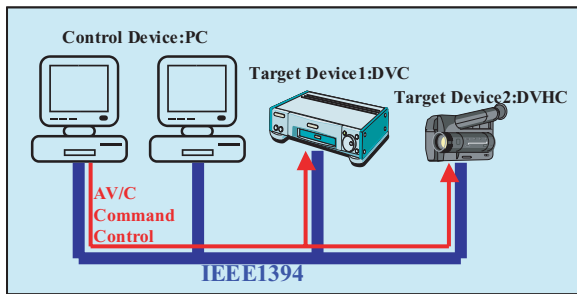
『WindowsソフトでDigitalVideoの双方向通信を実現』

DVLive!は、IPネットワークを利用して、一般のDVカメラの映像をパソコン間で伝送できるビデオ伝送ソフトウェアです。1対1の双方向通信はもちろん、マルチキャストによる多地点への同時伝送も可能です。次世代のプロトコルのIPv6にも対応しています。受信した映像はパソコン上へ表示するとともに、IEEE1394を経由して外部のDVカメラやモニタへ出力できます。パソコンのソフトだけで実現しますので、大学や会社のイントラネットなど様々な場面で、自分のパソコンを使って(ユビキタ的に)安価に手軽に高品質ビデオ通信が実現できます。

●安川情報システム(株)

『HAVi規格とIEEE1394を組み合わせたAV系ネットワーク』 ～AV機器の相互接続デモ～

HAVi(Home AV interoperability)規格は、ホームネットワークに対応するデジタルAV機器間の相互運用が保証されているミドルウェア仕様の規格です。デモでは、HAVi対応AV機器をIEEE1394で接続し、コントローラとなる機器からターゲットとなる機器の制御を行います。機器をIEEE1394で接続することで、コントローラ側でターゲット機器を認識し、その制御モジュールをアップロードします。そのモジュールを利用して、ターゲット機器の機能を制御します。



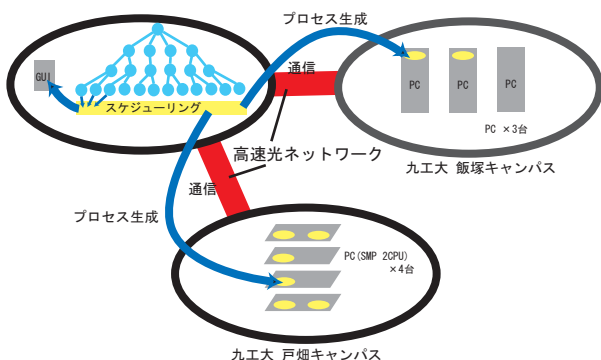
●NTTグループ

●九州工業大学(小出研究室、尾家・川原研究室)

『分散計算型オセロゲーム』

～Grid コンピューティングにおけるゲーム木探索～

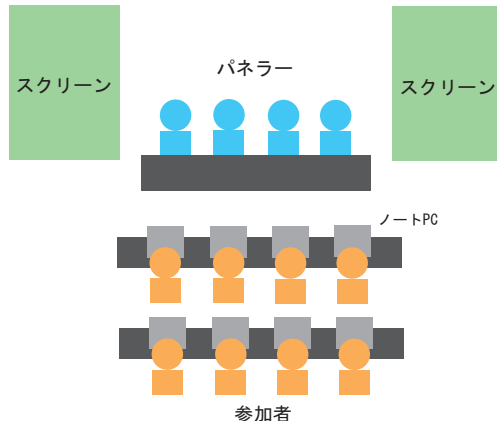
本デモンストレーションは、対戦型オセロゲームのゲーム木の探索を分散計算するものです。ゲーム木とはゲームのルールに従って敵味方が次々と可能手を指していくことで形成されるものです。対戦型の場合、短時間により深くゲーム木を探索する必要があります。本デモでは、この計算を広域光ネットワークで接続された10台以上のプロセッサ上で行います。なお、各計算機への計算の割り当てはリストスケジューリングにより行います。



●九州工業大学(尾家・川原研究室)

『講演会/パネルディスカッションの拡張』(会議室C 13:00～)

聴講者の机全てにノートパソコンを設置し、聴講者とパネラー全員が同時にチャットに参加できる環境を構築します。これにより講演中でも聴講者と講師間、聴講者間の意見交換を気軽に行え、一方的に話を聴くだけでなく、より積極的に講演に参加できるようにします。また、講演の様子はインターネットを通して中継し、会場に来れない方でも手元のパソコンで聴講できるようにします。

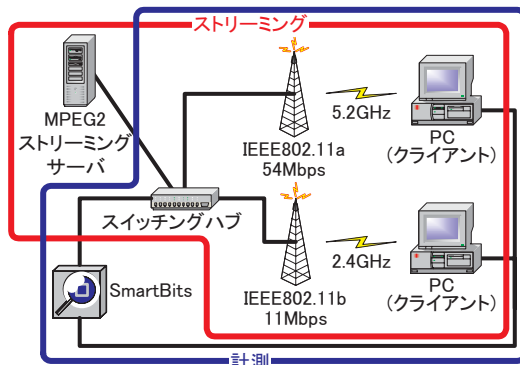


『イーサネット上の多チャンネルデジタルビデオ伝送実験』

2001年は総務省の「ブロードバンド元年」宣言に見られるように、ADSLや光ファイバといった高速なインターネット接続が比較的手軽に利用可能となった1年でした。そして本年もその勢いは加速しており、ブロードバンドが家庭へ職場へとますます普及していくと予想されます。このように高速なインターネット接続が利用可能となった結果、新曲のビデオクリップや映画予告など多くの動画配信サービスが始まっています。将来的には光ファイバ網の整備により100Mb/sといったより高速なインターネット接続が可能となり、動画配信サービスの量・質が向上していくことが期待されます。そのような多チャンネル動画配信サービスを行うためには、Gigabitイーサネットのような超高速伝送技術に対応した中継機が必要となります。そしてそのような中継機が大量の多チャンネル動画データ処理でき、受信側で問題なく再生できるのか実験が必要です。そこで本デモでは、実際に多チャンネルビデオ配信を行い、受信側で問題なく再生できるのか実験を行います。

『無線LANを用いた動画配信と性能評価』

現在製品化されている無線LANの規格にはIEEE802.11aとIEEE802.11bの2つがありますが、アプリケーションレベルとネットワークレベルの2つの視点でこれらの性能を比較します。アプリケーションレベルではMPEG2のストリーミングを行い、どの程度の品質が得られるかを実際に見ていただきます。ネットワークレベルではトラフィックをSmartBitsを用いて計測し、実際にどの程度のスループットが得られているかなどを数値的に示します。



最新情報は、下記URLをご覧ください。

<http://infonet.cse.kyutech.ac.jp/events/infomonth2002/>